

会議名	令和7年度第2回 芦屋町住民参画推進会議		会場	芦屋町役場 31 会議室		
日時	令和8年2月10日（火） 19:00～20:00					
件名・議題	1 令和8年度「情報ガイドブック」に関する取り組みについて 2 その他					
委員の出欠	委員長	内村 尚俊	出	廣橋 智	出	
	副委員長	福島 直人	出	佐伯 慎也	出	
		石川 智雄	出	上四元 恵子	出	
		山田 寛	出	朝倉 直美	出	
		長沢 正行	出	釘崎 奈緒子	出	
合意・決定事項	○令和8年度の取り組み予定について、情報共有を行った。					

令和7年度第2回住民参画推進会議議事録（概要）

1 委員長あいさつ

本日は委員の皆様のお力添えを賜り、活発かつ有意義なご議論をいただきたい。

2 議事

(1) 令和8年度「情報ガイドブック」に関する取り組みについて

【事務局による説明】

令和7年度第1回住民推進会議の中でいただいた意見について、報告した。

資料1より、令和8年度「情報ガイドブック」に関する主な取り組み予定について報告した。

【質疑・意見等】

〈委員長〉

少子高齢化対策につながる高齢者福祉や少子化対策に対する取り組みを実施予定としているが、期待された成果が出ているのか。

〈事務局〉

少子高齢化は全国的に深刻化している状況で、さまざまな取り組みを実施しているものの、芦屋町でも年間出生数は減少し高齢化は進行している状況である。しかし、令和6年度に策定した「芦屋町人口ビジョン」では、当初の想定よりも人口減少の傾きが緩やかになっている。そのような観点から、取り組みは順調であると認識している。

〈委員長〉

今後とも本施策が成果をあげるため、引き続き取り組みを継続いただきたい。

〈委員〉

アンケート調査において、紙の調査票を郵送して回答を回収する手法で実施しているのか。

〈事務局〉

紙とWebフォームの手法で実施しているものが多い。高齢者は、Webフォームよりも紙の調査票の回収率が高いため、どちらも実施している状況である。一方で、高齢者家族が代行してスマートフォン等で回答するパターンも増えてきており、近年Webフォームとの併用が増加している。

〈委員〉

Webフォームを実施したことでアンケートの回答率が増加している実績などがあるのか。

〈事務局〉

一例を挙げると、町の最上位計画である「総合振興計画」の策定時に実施したアンケート（住民意識調査）では、WEBフォームの導入により、アンケートの回答率が増加した。

〈委員〉

自治区担当職員制度による自治区活動への職員派遣は人手不足の中、大変助かっている。しかし、近年支援要請が実現に至らないケースが多い。支援いただくことで実現できる活動もあるので、今後とも継続して実施いただきたい。

〈事務局〉

本件については、職員への周知方法の検討も含め、このような意見があったことを担当課へ伝えさせていただく。

〈委員〉

町の補助金制度には大変助かっているため、本制度のより一層の充実を図るため、アンケート調査には積極的に協力させていただきたい。

(2) その他

委員・事務局ともになし。

【事務局より事務連絡】

○次回の会議は令和8年7月～8月開催予定。